

国際的な東南アジア図書館 ネットワークとリソースシェアリング

バージニア・ジンイ・シー

●背景

図書館の予算が縮小されていくなかで、それに関わる普遍的課題に対応するには、あらゆる戦略的なイニシアティブを最大限に生かすことが非常に重要である。例えば、印刷・非印刷資料や人材の獲得、増大するコレクションのスペース確保、利用者の情報ニーズに適したデジタルコモンズの導入、そして既存のデジタル技術のアップグレードなどの課題があげられる。こうした課題に対して、共同での資料収集や目録作成、保存、アクセスのほか、図書館相互貸借、レファレンス・レフェラルサービス、そして紙媒体からインターネットおよびモバイルアクセスにまで対応した文献送付サービスなど、今日のデジタル時代ならではの図書館ネットワークやりりソースシェアリングを活用した経

済的で時間効率の良い運営を目指す必要がある。

カリフォルニア大学バークレー校は、当大学の使命のひとつとして、多くの専門分野にまたがる学際的な国際地域研究を支えてきた確固たる長い歴史を持つ。大学には九つの学際的な国際地域研究に関する拠点があり、アフリカ研究所、欧州研究所、国際研究所、ラテンアメリカ研究センター、中東研究センター、スラブ・東欧・ユーラシア研究所、南アジア研究センター、東南アジア研究センター⁽¹⁾は、世界中の様々な研究機関とともにグローバルな研究のイニシアティブをとっている。国際地域研究のコレクションに携わるライブラリアンたちは、言語や形式を問わず関連する研究資料を互いに協力して収集し、バークレーお

よびその他の地域における国際地域研究を支援することが求められている。

本稿では、東南アジアに関するグローバルなリソース⁽²⁾を収集・整理するためのローカルから世界規模にまで及ぶ東南アジア図書館ネットワークとリソースシェアリングを「厳選して」紹介する。さらに、アジアおよび東南アジア研究を行う国際団体についてもいくつか注目したい。これらは、東南アジアコレクションに携わるライブラリアンにとって、国際的な学術コミュニティに触れ、ネットワークを構築するための重要な場である。いつでもどこからでもアクセスできるインターネット環境を考慮し、常に変化するデジタル文化のなかで、グローバルな図書館ネットワークやリソースシェアリングの有効性を生かし、現在と

未来の利用者に対してよりよいサービスを提供できることが筆者の望みである。

●学内ネットワーク

カリフォルニア大学バークレー校では、国際地域研究に携わるライブラリアンたちは、国際・地域研究学部（IAS）のもとで密に連携している。IASのライブラリアンは当学部の代表として分野別の委員会（芸術・人文科学委員会、社会科学委員会）や図書館の機能に関する委員会（管理サービス委員会、目録・メタデータ委員会、コレクション委員会、教育支援委員会、公共サービス委員会）との定期的な会合に出席し、アイデアや知識を共有したり、コレクションやサービス、方針に関する図書館の動向や課題について議論したり、利用者のニーズに応える有効な解決策を提案したりしている。

●地域ネットワーク

カリフォルニア大学の組織ネットワーク
カリフォルニア大学の一〇のキャンパスでは、それぞれ東南アジア研究資料の収集において異な

る得意分野や優先順位を持ち、カリフォルニア大学バークレー校をはじめ、同アーバイン校、同ロサンゼルス校、同リバーサイド校、さらにはスタンフォード大学の利用者ニーズに込えている。また、図書館相互貸借サービスや、研究に関するレファレンスサービス、レフェラルサービスも提供している。

●国内ネットワーク

東南アジア研究資料委員会 (CORMOSEA)

CORMOSEAは、一九六九年にハワイ大学マノア校のフレッド・W・リッグス教授によって設立された委員会、アジア学会 (Association for Asian Studies) の東南アジア評議会 (Southeast Asia Council) が指揮を執っている。この委員会は、東南アジアに関する研究資料のコレクションの強化をはじめ、資料収集や目録作成、保存、レファレンスにおける問題への取り組みや解決策の提案を行い、東南アジア研究に携わる米国の研究者や教職員、学生の資料活用の便宜を高めることを目的として設立された。CORMOSEAは、当委員会の

委員によって選出された議長および運営委員会が統括し、CORMOSEAの取り組みについて議論をする。また、CORMOSEAは蔵書構築とテクニカルプロセス^③の二つの分科会からなり、どちらもCORMOSEAのライブラリアンが主査を務める。CORMOSEAは年に一度、オンライン上でCORMOSEA Bulletinを一般向けに配信している。また、アジア学会と連携した会合も毎年行っており、最近の動向や課題および問題点、プロジェクト、ニーズなどについて議論を行っている。さらには、専用のリストサーバを用いて、会員や東南アジア研究関連のコミュニティとコミュニケーションをとっている。なお、International Directory of Southeast Asia Librariansは定期的に更新されており、一般にも公開されている。

アジア・アフリカ資料目録委員会

アジア・アフリカ資料目録委員会 (CC·AAM) は、米国図書館協会 (ALA) の一部門である図書館コレクションおよびテクニカル・サービス部会 (Association for Library Collections &

Technical Services) の委員会である。CORMOSEAは、会員のなかからCC·AAMの会合に参加する代表を指名する。代表者はこの委員会に参加し、東南アジア資料の目録作成のあらゆる側面に関する質問や課題、問題点、方針を提起する。これらの提起は専門家コミュニティに関わる議論や協議、再考、承認のために行われる。

米国議会図書館の東南アジア共同収集プログラム

米国議会図書館の東南アジア共同収集プログラム (CAP·SEA) は、米国議会図書館 (以下、LC) およびCAP·SEAの参加機関^④の費用回収モデルに基づき、欧米や東南アジアの国と地域の言語で書かれ、東南アジアで出版された地域関連の資料を収集するプログラムで、本部をジャカルタ、支部をバンコク、クアラルンプール、マニラに構えている。収集の範囲は、芸術や人文科学、社会科学、自然科学などを網羅するLCの主題プロファイルと資料カタログに基づいており、資料の形式は単行書、定期刊行物、地図および地図帳のほか、マルチメ

ディアにも対応している。

研究図書館センターの東南アジア・マイクロフォーム・プロジェクト

研究図書館センター (CRL) の東南アジア・マイクロフォーム・プロジェクト (SEAM) は、その会員の資金供給による事業で、希少なあるいは地域限定で発行された東南アジアに関する資料をマイクロフィルム化して保存することを目的としており、主に同地域で発行された新聞や定期刊行物、単行書を対象としている。

また、一般公開のために利用可能なマイクロフィルムの購入も行っている。SEAMにはアジアをはじめ欧州、北米で延べ二七の機関が参加している。SEAMはアジア学会と年次大会を共催し、事業計画やSEAMが注目する東南アジアに関する話題について議論や見直しを行っている。

●国際的なネットワーク

東南アジア図書館人会議

東南アジア図書館人会議 (CONSAL) は一九七〇年にシンガポールで設立され、東南アジアの一〇カ国 (ブルネイ、カンボジ

ア、インドネシア、ラオス、マ

レーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）の国立図書館や図書館協会、

図書館司書養成所、その他関連機関の代表やライブラリアンとい

った専門家が一堂に会する場とな

っている。CONSALでは、東南

アジア地域内外における専門的な

ライブラリアンシップやドキュメ

ンテーション、資料の展示、リ

ソースシェアリングなどを促進す

るため、年三回、各加盟国が交代

して会合を主催している。

国際図書館連盟（IFLA）アジア・オセアニアセクション

IFLAアジア・オセアニアセ

クションは、「アジア・オセア

ン域内の西アジア、南アジア、東

南アジア、東アジア、オセア

ンツールとなっている。

東南アジア図書館グループ

東南アジア図書館グループ（S

EALG）は一九六八年にハル大

学にて創設された。SEALGは

東南アジア研究に関心を持つ学

者およびライブラリアンで構成

され、東南アジアに関する資料の

収集やドキュメンテーションの

作成、東南アジアコミュニティの

資料へのアクセスの改善に向けて

共同で取り組んでいる。SEALG

は欧州内の様々な加盟図書館で

毎年会合を行っており、一般向け

のニュースレターも年に一度オン

ライン上で配信している。

●アジア研究および東南アジア研究に関する国際的学術協会

アジア研究および東南アジア研

究に関連する主要な学会機関、

プロジェクトを以下の参考サイ

トで紹介する。研究者や学生、

ライブラリアン、出版社にとっては研究

発表の場となるだけでなく、研究

分野における最近の動向や問題

点、課題、可能性および展望につ

いて常に新しい情報が得られる格

好の場所となる。さらには、アジ

アの研究者およびライブラリアンにとつて、グローバルな学術ネットワークの構築や、類似する研究の関心やニーズに基づくりソースシェアリングの場としても機能している。

（Virginia Jing-yi Shin／米国・カリフォルニア大学バークレー校、

南・東南アジア図書館における東

南アジアコレクションの責任者。

コーネル大学（ニューヨーク、米

国）で東南アジアに関する研究と

言語を学び、カリフォルニア大学

バークレー校ではアジア研究につ

いて学ぶ。二〇二二年から二〇二

三年には、京都大学の東南アジア研

究所にて客員教授を務める。）

《注》

(1) 詳細は<http://ias.berkeley.edu/>を参照のこと。

(2) 「東南アジアに関するグローバルなリソース」とは、東南アジア研究に関する印刷物資料および電子化資料を意味し、言語や形式、発行者、発行場所は問わない。

(3) 「テクニカルプロセス」とは、東南アジアに関する資料の目録作成を意味する。

(4) 詳細は<http://www.locjkt.or.id/participant.asp>を参照のこと。

《参考サイト》

● オーストラリアアジア研究学会

<http://asaa.asn.au/>

● アジア学会

<http://www.asian-studies.org/>

● イギリス東南アジア研究学会 (Association of South-East Asian Studies in the United Kingdom)

<http://aseasuk.org.uk/3/>

● ヨーロッパ東南アジア研究学会

<http://www.euroseas.org/platform/en>

● 国際アジア研究所

<http://www.ias.nl/>

● 東南アジア研究資料委員会 (CORMOSEA)

<http://www.cormosea.org>

● アジア・アフリカ資料目録委員会

<http://www.ala.org/alcts/mgrps/camms/cmtes/ais-ccscataa>

● 米国議会図書館の東南アジア共同収集プログラム

<http://www.locjkt.or.id/>

● CORMOSEA Bulletin

<http://www.cormosea.org/bulletin/bulletin.htm>

● 研究図書館センターの東南アジア・マイクログラフ・プロジェクト

<http://www.crl.edu/area-studies/seam>

● 東南アジア図書館人会議

<http://www.consal.org>

● 国際図書館連盟 (IFLA) アジア・オセアニアセクション

<http://www.ifla.org/about-the-asia-and-oceania-section>

● 東南アジア図書館グループ

<http://www.sealg.org/>

（なお、本稿で引用したURLの最終閲覧日は全て二〇一三年一二月一五日まで）